

令和7年度 第1回 静岡県スタートアップ支援戦略推進委員会 意見対応表

項目	御意見	対応
戦略の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・静岡県のスタートアップ支援の中長期的なスローガンなど、皆が意識集約できる目標がはっきりしていない。本委員会を通じて、どのようなアウトプットを出していくのかの目線がまだシンクロできていないのでは。(田島委員) ・産業を作れるぐらいのメーカーを創出できるかというところが一番肝である。(東委員) ・県下全域でまずスタートアップに対するリテラシーを上げていく活動がまずスタートにあるべき。(岩本委員) 	<ul style="list-style-type: none"> ・支援戦略 2026 案においては、これまでの戦略に掲げた「目的」や「目指す地域の姿」に加え、各施策の出口として「地域イノベーション・エコシステムの構築」と「静岡県発のグローバルスタートアップの創出」の双方を目指すことを明確化しました。
グローバル展開支援／ディープテックスタートアップの支援	<ul style="list-style-type: none"> ・特にディープテックスタートアップはグローバルで勝てないと日本でも勝てないどころか潰れてしまうのが現実。静岡を代表するスタートアップではなく、世界に通用する、日本を代表するスタートアップを静岡発で生み出していくという視座でやらないと、結局何も残らない。(田島委員) ・ディープテックスタートアップに関しては、県だけでやるというのはほぼ不可能。国に送り込めるレベルにまでサポートして育てられるのかというのが入り口だと思う(東委員) ・日本の一次産業のインパクトスタートアップについても、海外展開をどう支援していくか。(東委員) 	<ul style="list-style-type: none"> ・支援戦略 2026 案においては、各施策の出口のひとつとして「静岡県発のグローバルスタートアップの創出」を掲げるとともに、「次世代産業関連プロジェクトの支援プラットフォームを活用した研究開発系スタートアップの育成」や「大学発ベンチャー支援」の取組をベースに、「資金調達支援」や「海外展開支援」を経て、国等の施策と接続することを目指しております。 ・一次産業のスタートアップについても、Ma0I（海洋産業）や A0I、Cha0I（農業）の各プロジェクトと連携し支援してまいります。
地域特性を踏まえたセクターの絞り込み	<ul style="list-style-type: none"> ・静岡にスタートアップを誘致するための合理的な理由を持たないといくら誘致したとて持続的な形にはならない。(田島委員) ・セクターを絞ることが大事。持てるリソースを特定のセクターに思いっきりこひいきしなければいけない。(篠原委員) ・セクターを絞るにあたっては、静岡が日本一の分野、トップクラスの分野だとやりやすい。(石田委員) ・地域のアカデミアとか地政学的な特徴も踏まえて出てくるスタートアップであれば支援する意義がある。(東委員) ・この領域であれば、静岡であるからこそ、絶対に勝てるんだというような強みをどう作っていくか(田島委員) ・静岡にフィットした産業を明確に定めて、産業クラスターではないが、地域を盛り上げていく戦略が必要。(田島委員) 	<ul style="list-style-type: none"> ・支援戦略 2026 案においては、取組の土台に、ものづくり産業や健康長寿県といった「静岡県の地域資源・地域特性」を据えるとともに、こうした本県の強みに基づき推進している次世代産業関連プロジェクトの各産業分野（医療健康産業、海洋産業、農業、光・その他製造業）にフォーカスして支援をしていく旨を明記しました。
アントレプレナー教育／次世代人材育成	<ul style="list-style-type: none"> ・次の時代の日本をアップデートできる人たちを静岡から生み出せるか、ここに注力するのが県の役目。(篠原委員) ・色々な高校でアントレプレナー教育をやっているところがあるが、統一できるといい。(石田委員) ・アントレプレナーシップの教育の部分、若者の施策に全振りするぐらいでもいい。(山本委員) 	<ul style="list-style-type: none"> ・R8年度は、次世代AI人材育成プログラムの新規事業の立ち上げを予定しており、次世代人材育成により一層注力してまいります。 ・学生起業家コミュニティ「CREWS」に県内外のアントレプレナーシッププログラムの情報を集約するとともに、各プログラムの入賞者の参加を促すなど、CREWSから実際の起業などのより高度な挑戦が生まれる仕組みの構築を目指します。
資金調達支援	<ul style="list-style-type: none"> ・補助金だといつか静岡から出ていくことになった時に、何も残らない事になる。山梨県や静岡市等がやっているエクイティで支援をする考えはなくていいか(篠原委員) ・ファンドサポート事業の資金だけでなく、金融機関がしっかりデットもつけていくということも大事になる(久島委員) ・ベンチャーキャピタルや金融機関を巻き込んで、地域のスタートアップに出資なりデットをしていける機能を作っていくべき。(東委員) ・ベンチャーキャピタル含め、何か連携の枠組を作ることが必要。(久島委員) ・15年や20年耐えられるような地域ファンドが最初に下支えし、実証実験をどんどん県内で進めていき、頃合いを見て、ベンチャーキャピタルに入ってもらような仕組みが必要。(篠原委員) ・地域ファンド的なものが必要(石田委員) ・(事業売却した3代目の方々などの)資金を次の静岡県のために振り向けていただけるような投資家側の教育があると面白い。(石田委員) ・ファンドサポート事業で支援したスタートアップを定着させるためには、本社の県内移転や設備投資を要件とするなどの工夫が必要。(土居委員) 	<ul style="list-style-type: none"> ・令和7年度に新設したファンドサポート事業について、事業効果を継続的に把握していくとともに、将来的な地域ファンド創設の可能性も含め、より効果的な資金調達支援のあり方について、今後検討してまいります。

<p>その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事業間の重複をなるべく排除し、繋がりをちゃんと階段として作るということをやっていかなければいけない。(篠原委員) ・それぞれの産業を作っていくときの入り口の段階から、ある程度大きくスケールさせていく段において、行政としての関わりをどう整理するのかは必要。(東委員) ・TECH BEAT Shizuoka で県内企業や県、市町と協業できる可能性があるとPRすることで、首都圏のスタートアップへの認知度を高めるなど、広告宣伝の場として活用できる。(岩本委員) ・内閣で取り組んでいるAI戦略の流れとも合う形で組み込んでいったほうが良い。(東委員) ・基礎自治体や広域での連携、一体化したプログラム運営などをどうやっていくのが重要(篠原委員) 	<ul style="list-style-type: none"> ・支援戦略2026案においては、これまでの「創出」「育成」「連携」「誘致」の区分による事業の整理に加え、それぞれの事業の目的・位置づけを明確にし、支援の出口に向けて事業間の繋がりが分るよう図式化しました。 ・TECH BEAT は県内企業や自治体とのマッチングに加え、取組を拡大し、地域の波及させる情報発信の仕組みとしても重要視しています。 ・2026の方針に「AI技術の県内への導入促進」を掲げ取り組んでまいります。 ・基礎自治体とは地域コミュニティ形成やマッチング・実証実験における連携、国や他都県とはグローバル展開の支援などで連携していくことを想定しています。
------------	--	--

SHIP

SHIZUOKA

INNOVATION

PLATFORM

静岡県

スタートアップ

支援戦略2026

～スタートアップフレンドリーな静岡県へ～

2026年3月

01

本県のスタートアップ支援施策の現状

(1) 2025年度の静岡県スタートアップ支援施策の全体像

創出 (種まき)

新ビジネスの需要創出、初期顧客の創出

TECH BEAT Shizuoka

拡充



パブリックピッチ

拡充

県による優先調達

新規

連携 (サポート)

コミュニティの形成、ネットワーク構築

ふじのくに“SEAs”

拡充



SHIPワンストップ相談窓口

SUコミュニティ形成支援

新規



資金調達支援

ベンチャーキャピタルと連携した資金調達支援

新規

育成 (成長支援)

実証フィールドの提供
スタートアップの発掘・育成



実証実験サポート事業

新規

ファンドサポート採択SUに対する支援

新規

ネクストイノベーター創出プロジェクト“FuJI”

大学発ベンチャーの発掘・育成

インキュベートセンターの管理運営

誘致 (呼び込み)

首都圏と県内の橋渡し
東部・伊豆地域への呼び込み



首都圏共創拠点の設置・運営

Shizuoka Startup Dayの開催

新規

東部・伊豆への拠点創出

新規

海外スタートアップの誘致

新規

(2) 2025年度の静岡県スタートアップ支援施策の主な事業実績

事業名	実績等	備考（主な採択テーマ・企業等）
ファンドサポート事業	申請25社／採択8社	・静岡県発イチゴの育苗DXプラットフォーム（HarvestX株式会社）ほか
実証実験サポート事業	申請135社／採択10社	・地下埋設物のARによる可視化・道路舗装の異常検知（株式会社mBiRS）ほか
公共調達モデル創出事業	申請20社／採択3社	・誰もが対応しやすい窓口業務の構築（株式会社AIベストパートナーズ）ほか
パブリックピッチ	参加24市町／登壇SU延べ18社	【テーマ】 ・伊豆：農林水産業、防災、観光業 ・東部：新産業、健康福祉、観光業 ・中部：移住、多文化共生、観光業、農林水産業
TECH BEAT Shizuoka 2025	来場者：10,125名／出展SU：178社 商談数：536件（2025年12月時点）	【開催日】2025年7月24日（木）～26日（土） 【会場】グランシップ（静岡市）
Shizuoka Startup Day	来場者：約500名 満足度：85.7%（来場者） 90.7%（登壇者・出展者）	【開催日】2025年12月22日（月） 【会場】TiB（東京都）

(3) K P I 進捗状況

戦略のK P I /目標値	基準値 (2024年度)	2025年度		2026年度	2027年度	目標値 (2028年度)
		目標値	実績値			
① 県内スタートアップ数 (本社)	180社	200社 (+20)	199社 (+19)	220社 (+20)	240社 (+20)	260社 (+20)
①-2 県事業により 県内拠点を設けた スタートアップ数	0社	15社 (+15)	16社 (+16)	30社 (+15)	45社 (+15)	60社 (+15)
② 資金調達総額	196億円	218億円 (+22)	231億円 (+35)	240億円 (+22)	262億円 (+22)	284億円 (+22)
③ 評価額100億円以上 のスタートアップ	0社	—	1社	—	—	3社

本県のスタートアップは、2024：180社 ⇒ 2025：199社に増加

(4) 静岡県のスタートアップの現状（全国）

	1位	2位	3位	4位	5位	...	10位	計
都道府県	東京	大阪	神奈川	福岡	京都		静岡	—
所在数	8,717	658	608	383	370		199	13,726
比率	63.6%	4.8%	4.4%	2.8%	2.7%		1.4%	100%

出典：スピーダ等をもとに静岡県算出 2026.1月時点（単位：社）

国内のスタートアップは、6割以上が東京都に集中する一方、
静岡県は1.4%にとどまる

(5) 静岡県のスタートアップの現状（県内）

【2024】	伊豆・東部	中部	西部	計
所在数	32	40	108	180
比率	17.8%	22.2%	60.0%	100%



【2025】	伊豆・東部	中部	西部	計
所在数	40	46	113	199
比率	20.1%	23.1%	56.8%	100%

出典：スピーダ等をもとに静岡県算出 2026.1月時点（単位：社）

県内のスタートアップは、約6割が西部地域に集中

02

スタートアップ支援戦略の方向性

(1) 静岡県スタートアップ支援戦略委員からの主な意見

戦略の方向性

- 皆が意識集約できる目標を明確にする必要
- 新たな産業をつくれる程のメーカーを創出できるかというところが一番肝
- 県下全域でスタートアップに対するリテラシーを上げていく活動が必要

アントレプレナー教育／次世代人材育成

- 次の時代の日本をアップデートできる人を静岡から生み出せるか、ここに注力するのが県の役目
- 色々な高校でアントレプレナー教育をやっているところがあるが、統一できるといい
- アントレプレナーシップ教育、若者の施策に全振りするぐらいでもいい

グローバル展開支援／Deep Techスタートアップの支援

- 世界に通用するグローバルスタートアップを静岡発で生み出していくという視座でやらないと、結局何も残らない。
- ディープテックスタートアップは県だけで支援するのは不可能。国事業に送り込めるレベルまで育てるのが入り口
- 一次産業のインパクトスタートアップについても、海外展開を支援していく必要

資金調達支援

- ファンドサポートだけでなく、金融機関がしっかりデットもつけていくことも大事
- ファンドサポートを交付金で支援することの是非や交付の要件、地域ファンドの創設など、資金調達の最適なあり方を検討する必要

地域特性を踏まえたセクターの絞り込み

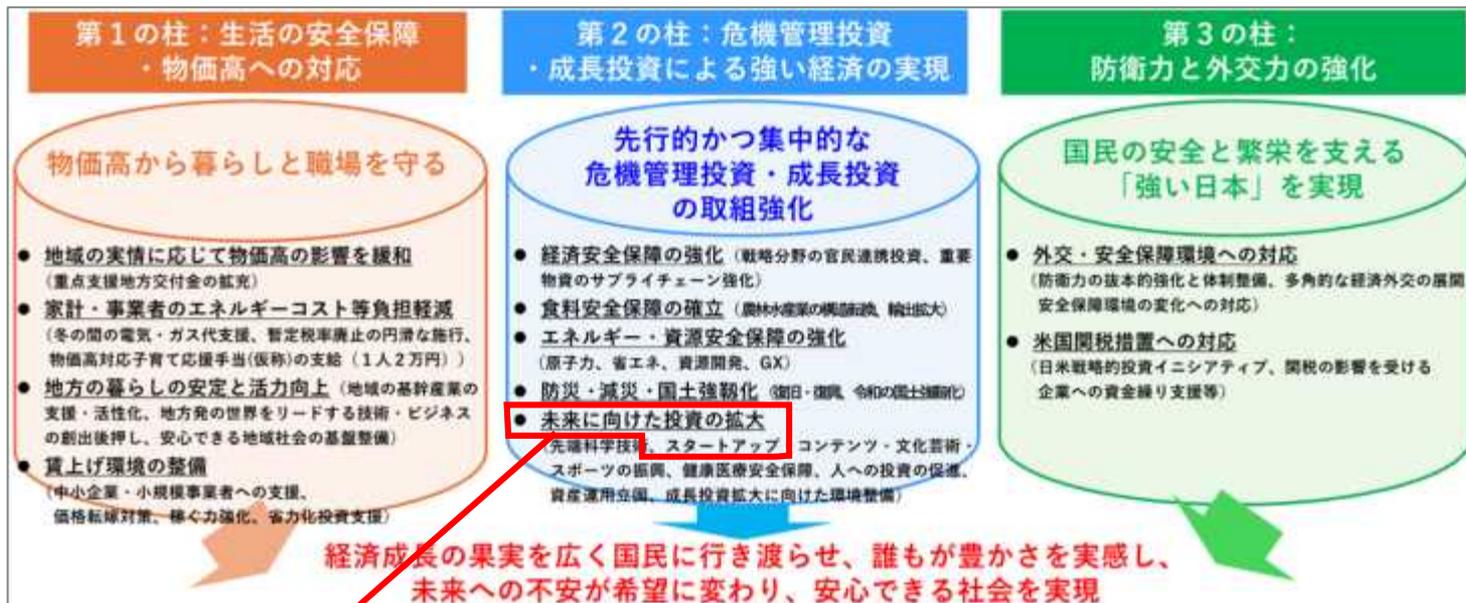
- 静岡にスタートアップが来る合理的な理由を持たないと持続的な形にならない
- 持てるリソースを特定のセクターに集中して支援することが大事
- この領域であれば、静岡であるからこそ、絶対に勝てるんだというような強みをどう作っていくか

その他

- 事業間の重複をなるべく排除し、支援策の繋がりを階段として作る必要がある
- 基礎自治体や広域で連携し、地域で一体的にプログラムを運営していくことが重要
- 内閣のAI戦略の流れとも合う形で組み込んでいったほうが良い

(2) スタートアップを取り巻く国の動向 1/2

「強い経済」を実現する総合経済対策（令和7年11月21日 閣議決定）

スタートアップ
支援強化

- ・ M&Aの活性化、投資促進、資金調達、海外起業家・投資家等とのネットワーク構築支援
- ・ 初期需要創出に向けた政府等の調達促進、大学発・高専発SUや地域若手トップ人材の育成 など

人工知能基本計画 ～「信頼できるA I」による「日本再起」～ (令和7年12月23日 閣議決定)

基本構想

「信頼できるA I」を追求し、「世界で最もA Iを開発・活用しやすい国」へ
「危機管理投資」・「成長投資」の中核として、今こそ反転攻勢

4つの基本的な方針に基づく施策

1. A I利活用の加速的推進「A Iを使う」

- ・ 社会課題解決に向けたA I利活用の推進
- ・ A I利活用促進による新しい事業や産業の創出

2. A I開発力の戦略的強化「A Iを創る」

ほか

3. A Iガバナンスの主導「A Iの信頼性を高める」

4. A I社会に向けた継続的変革「A Iと協働する」

- ・ A Iを基軸とした産業構造の構築
- ・ A I人材の育成・確保

ほか

全国屈指の「ものづくり県」

製造品出荷額等：全国2位（19.8兆円・R5年度）

輸送用機械、電気機械、食料品、医薬品など
多様な産業



多彩な農林水産物

茶、イチゴ、温室メロン、マグロ、カツオ、ウナギ
など多種多様で高品質な「食材の宝庫」



豊かな自然環境

富士山、南アルプス、海洋（駿河湾・遠州灘・浜名湖 等）
伊豆半島などの豊かで特徴的な自然環境



全国トップの健康長寿県

健康寿命：全国1位

（男性73.75歳、女性76.68歳・R4年度）



陸・海・空の交通ネットワーク

高速道路、鉄道、港湾、空港のネットワーク
と首都圏や中京圏からの好アクセス



スポーツ・文化・観光資源

サッカー、野球、ラグビー、バレー、バスケット、
自転車、卓球など18のプロスポーツチーム
世界遺産、温泉、アニメ聖地など



(3) 静岡県の地域資源・地域特性 2/3

○ 次世代産業関連プロジェクト

「次世代モビリティ」「航空宇宙」プロジェクト



地域企業の持つ固有技術を活かし、EV、ドローン・空飛ぶクルマなど次世代モビリティの部品開発を支援

○関連分野:次世代自動車、エアモビリティ、宇宙等

ファルマバレープロジェクト



医療健康産業の振興と集積等を図り、医療田園都市構想を推進

○関連分野:医療、医薬品、医療機器等

フォトンバレープロジェクト



光・電子技術を活用し、県内産業の新事業展開等を支援

○関連分野:光・電子技術

静岡ウェルネスプロジェクト



先端技術や医療・健康データを活用し、県民の健康寿命の延伸と、食品や健康関連産業の振興を推進

○関連分野:食品、健康、化粧品等

ふじのくにCNFプロジェクト



植物由来で軽量・高強度の新素材セルロースナノファイバー(CNF)を利用した製品開発を支援

○関連分野:CNF

(3) 静岡県の地域資源・地域特性 3/3

○ 次世代産業関連プロジェクト

AOIプロジェクト

栽培技術開発により農業の生産性向上を図るとともに農業を軸としたビジネス展開を促進

○関連分野: 農業



MaOIプロジェクト

静岡の海をフィールドに、スタートアップ誘致等を進め、海洋産業振興と環境保全の世界的拠点形成を推進

○関連分野: 海洋、水産等



ChaOIプロジェクト

お茶の「新たなブランド価値」の創造と出口戦略に基づく商品開発の強化

○関連分野: 茶業



FAOIプロジェクト

森林の適正管理による公益的機能の発揮と森林資源の循環利用による林業の成長産業化に向けて、森林のデジタル情報基盤の整備や先端技術の現場実装などを推進

○関連分野: 林業、木材産業



伊豆ヘルスケア温泉イノベーション(ICOI)プロジェクト

伊豆の温泉等を活用し、スタートアップ誘致などにより新たな産業を創出

○関連分野: 温泉、文化、観光、ヘルスケア等



その他の次世代産業振興策

半導体関連、医療・福祉機器、ロボット関連、環境・新エネルギー関連

(4) 静岡県のスタートアップ支援の目的と施策の出口

◆ スタートアップ支援の目的

1 県内企業の課題解決

地域企業との協業による既存事業の革新

2 社会課題の解決

県内自治体等が抱える様々な社会課題の解決

3 雇用の創出・多様な働き方

多様な働き方の選択肢の拡大

4 新たな産業の創出

スタートアップとの融合による新たな産業の創出

◆ 施策の出口

地域イノベーション・エコシステムの構築

静岡県発のグローバルスタートアップの創出

スタートアップ支援の4つの目的を達成するため、
「地域イノベーション・エコシステムの構築」と「静岡県発のグローバルスタートアップの創出」
の双方の実現を目指す様々なスタートアップ支援施策を展開

(5)「目指す地域の姿」とロードマップ

目 標

10年後の姿 (R15)

スタートアップにとってフレンドリーな静岡県

- 多彩な地域資源を活用し、成長を目指してSUが活躍できる地域
- 産学官金の連携によるコミュニティが、県内各地で形成される地域
- SUへの理解が浸透し、SU型起業を目指す者が多く生まれる地域

エコシステム
形成・発展

III

7~9年目 (R12~14)

- ・ 成長したSUが支援者として新たなSUを生み育てるエコシステムの形成
- ・ 静岡発のSUが国内外で活躍
- ・ 国内外のSUが静岡に集積
- ・ SUを志す者が増加、起業の裾野が拡大

成長加速

II

4~6年目 (R9~11)

- ・ 東部・中部・西部のコミュニティが有機的に機能し、県内各地にSUが増加
- ・ 支援拠点を核としたネットワーク強化
- ・ SUの更なる成長支援と共創促進
- ・ 将来の選択肢としてSUが浸透

人・場づくり
機運醸成

I

1~3年目 (R6~8)

- ・ 県内企業や県民が、SUを身近に感じるようにSUの誘致や創出支援に注力
- ・ 県内企業や県民の機運醸成
- ・ 成功事例の創出、コミュニティ形成支援
- ・ 学校等と連携した次世代の人材育成

(6) 「静岡県スタートアップ支援戦略」の変遷

2023年9月

静岡県スタートアップ支援戦略

「創出」「育成」「連携」の3本の柱で
スタートアップ支援を本格化

創出
(種まき)

育成
(成長支援)

連携
(サポート)

2025年2月

静岡県スタートアップ支援戦略2025

「誘致」の取組の追加
KPIの見直し

創出
(種まき)

連携
(サポート)

育成
(成長支援)

誘致
(呼び込み)

2026年2月

静岡県スタートアップ支援戦略2026

スタートアップ支援の効果の地域への波及
AI技術の県内への導入促進

創出
(種まき)

連携
(サポート)

育成
(成長支援)

誘致
(呼び込み)

+

波及

スタートアップ支援

地域への波及

03

スタートアップ支援戦略2026 の全体像

目的	1 県内企業の課題解決	2 社会課題の解決	3 雇用の創出・多様な働き方	4 新たな産業の創出
目指す地域の姿	<ul style="list-style-type: none"> ○ 多彩な地域資源を活用し 成長を目指してスタートアップが活躍できる地域 ○ 産学官金の連携によるコミュニティが県内各地で形成される地域 ○ スタートアップへの理解が浸透し起業を目指す者が多く生まれる地域 			
2026方針	① スタートアップ支援の効果の地域への波及（創出・育成・連携・誘致+波及） ② AI技術の県内への導入促進			

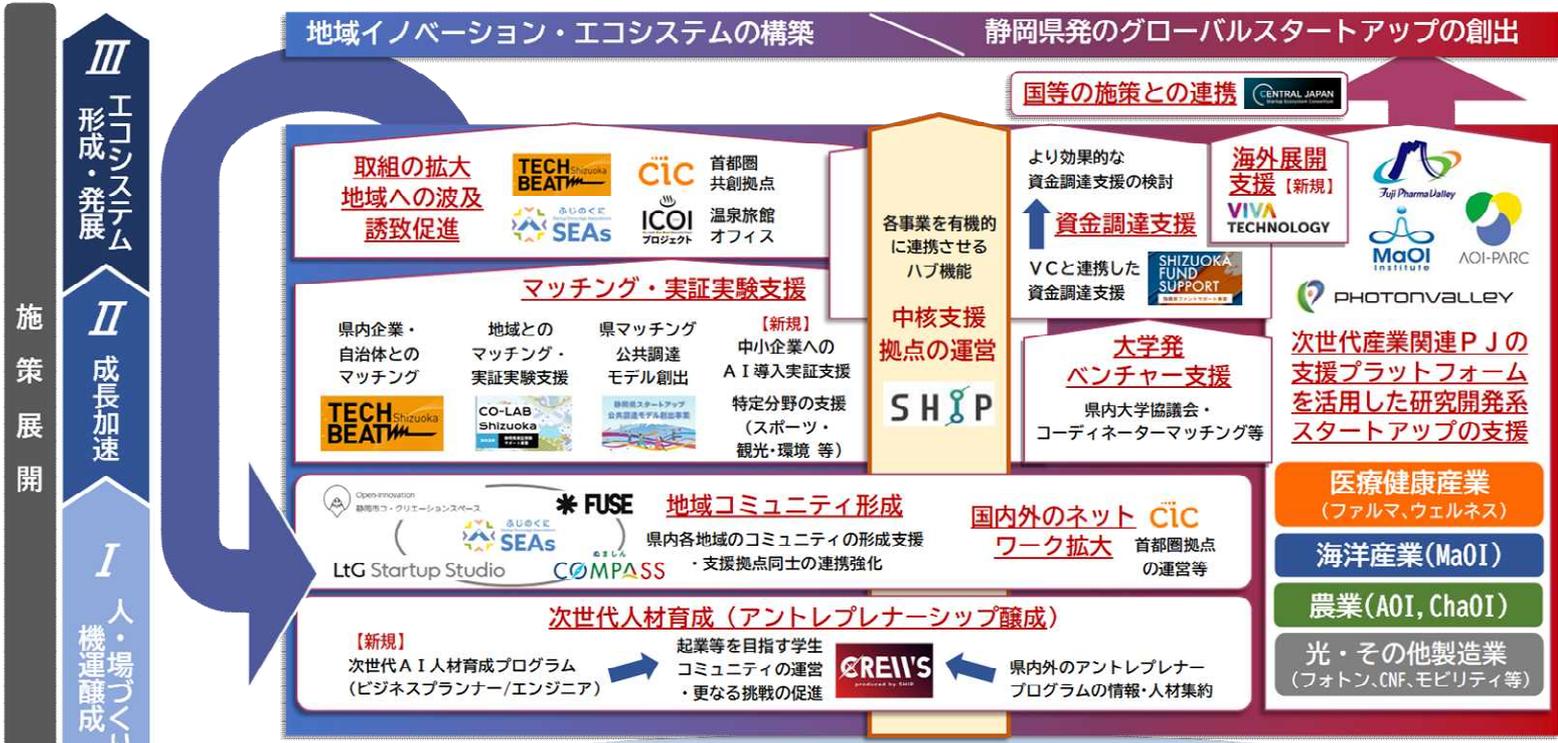
成長フェーズに合わせた
切れ目のない支援

（産業化）

（事業化）

（創業・開発）

（創業前）



施策展開

静岡県の地域資源・地域特性 [全国屈指の「ものづくり県」、多彩な農林水産物、駿河湾・伊豆半島・富士山等の豊かな自然環境
全国トップの健康長寿県、陸・海・空の交通ネットワーク、スポーツ・文化・観光資源 など]

(2) 2026年度スタートアップ関連事業予算案 スタートアップ支援事業費
デジタル人材確保育成事業費

	カテゴリー	事業概要	R7当初	R8当初案	区分
I 人・場づくり 機運醸成	(1) 中核支援拠点の運営 (3) 地域コミュニティ形成 ※ (2)(9)の一部含む	・ SHIPスタートアップ支援 ・ ふじのくに“SEAs” ・ 学生起業家コミュニティ「CREWS」	71,000	71,000	創出 育成 連携 誘致 波及
	(2) 次世代人材育成	・ 次世代A I エンジニアコンテスト【新規】	－	10,000	創出
		・ 次世代A I ビジネスプランナー育成プログラム【新規】	－	20,000	創出
	(4) 国内外のネットワーク拡大	・ 首都圏スタートアップとの共創拠点設置	8,600	8,500	連携 誘致 波及
II 成長加速	(5) マッチング・実証実験支援	・ TECH BEAT Shizuoka 開催【拡充】	35,000	50,000	育成 誘致 波及
		・ 実証実験サポート事業	40,000	40,000	育成 誘致 波及
		・ 公共調達モデル創出事業【拡充】	16,500	32,000	育成 誘致 波及
		・ A I を活用した中小企業の課題解決支援【新規】	－	30,000	育成 誘致 波及
	(6) 大学発ベンチャー支援	・ 大学発ベンチャーの発掘・育成 ・ インキュベートセンター管理運営	18,900	18,900	創出 育成 波及
	(7) 資金調達支援	・ ファンドサポート事業	450,000	365,000	育成 誘致 波及
(8) 次世代産業関連プロジェクト との連携	・ 各次世代産業関連プロジェクト (ファルマ、MaOI、AOI、フoton等)	別事業計上	別事業計上	創出 育成 連携 誘致 波及	
	・ プロジェクト参加企業とスタートアップとの マッチング【新規】	－	8,000	育成 連携 誘致 波及	
III エコシステム 形成・発展	(9) 取組拡大・地域波及・誘致促進	・ 温泉旅館オフィス化事業	別事業計上	別事業計上	育成 連携 誘致 波及
	(10) 海外展開支援	・ 海外スタートアップイベントへの出展支援【新規】	－	9,000	育成 連携 誘致
	(11) 国等の施策との連携	・ スタートアップエコシステム拠点都市【新規】	－	1,400	育成 連携 誘致
その他	(その他デジタル人材確保・育成)	・ 大学連携講座、ICT企業誘致助成 等	153,500	114,600	－
	R7終了事業	パブリックピッチイベント、Shizuoka Startup Day、 ネクストイノベーター創出プロジェクト「FuJI」	40,000	－	－
合 計			833,500	778,400	

単位：千円

04

スタートアップ支援戦略2026 の各施策

(1) 中核支援拠点の運営

R8当初:7,100万円の内数

- 創出
- 育成
- 連携
- 誘致
- 波及

○ イノベーション拠点「SHIP」によるスタートアップ支援

県イノベーション拠点「SHIP」において、デジタル人材の育成支援、企業等のオープンイノベーション促進支援に加え、**スタートアップの相談に対応するワンストップ窓口を設置し、スタートアップをはじめとした県内のイノベーションの活性化を図る。**
 加えて、**各支援施策の情報を集約し、施策を繋ぐハブの役割を果たす。**

【SHIP概要】

設置場所	静岡市葵区呉服町
会員	3,507人(2025年12月末時点)
相談体制	スタートアップ相談員を3名配置(受付時間:平日12時~20時)
相談事例	<ul style="list-style-type: none"> ・事業計画ブラッシュアップ ・投資家へのアプローチ方法助言 ・協業先や専門家の紹介 ほか





① 次世代A I人材育成プログラム【新規】

イノベーションを牽引する次世代のA I人材を育成するため、ビジネス領域において特に重要となる「A I開発者(≒エンジニア)」及び「A I事業企画者(≒ビジネスプランナー)」を育成するプログラムを開催する。

【次世代A I人材育成プログラム概要 (案)】

区分	次世代AIエンジニアコンテスト	次世代AIビジネスプランナー育成プログラム
目的	AI開発者(エンジニア)の育成	AI事業企画者(ビジネスプランナー)の育成
対象	小学生～大学生(AIは高校生以上)	高校生(高専1～3年生を含む)
内容	・プログラミングやAI作品を制作するコンテストを開催 (プログラミング部門とAI部門の2部門構成)	・ キャンプ(基礎的なAIスキル/起業スキルの習得) ・ ツアー(先進地域訪問、トップレベル環境の体感) ・ 講義・伴走支援(起業家による講義、事業アイデアの個別相談)
育成スキル	【課題解決力】 AI技術等を活用しビジネス課題を解決する能力	【課題発見力・事業企画力】 AI技術等を活用し新たなビジネスプランを企画立案する能力



などの取組を通じて合流し、A Iを活用したビジネスプランの実装・起業へ

創出

② 学生起業家コミュニティ「CREWS」

起業等に挑戦したい学生等のコミュニティ「CREWS」を運営。
SHIPを会場に定期的にイベントを開催するとともに、オンライン上でコミュニティ活動を展開。
また、**県内外で開催されるアントレプレナーシッププログラムやデジタル人材育成プログラムに係る情報や人材等を集約し、新たなネットワークや挑戦等が継続的に生まれる仕組みを構築する。**

【CREWS概要】

参加対象	起業等に挑戦したい学生(高校生、高専生、大学生等)
会員	48人(うち高校生11人)(2025年12月末時点)
主な活動	<ul style="list-style-type: none"> 毎月「SHIP-CREWSDAY」を開催し、学生の交流を促進 オンライン(Slack)上でコミュニティ活動を展開



(3) 地域コミュニティ形成

R8当初:7,100万円の内数

- 創出
- 育成
- 連携
- 誘致
- 波及

○ スタートアップ支援コミュニティ「ふじのくに“SEAs”」

県内のスタートアップ支援に係る様々なプレイヤーが繋がるネットワーク
ふじのくに“SEAs”を運営する。

県内各地域における**スタートアップコミュニティ形成を支援**するとともに、
各地の支援拠点同士の連携を強化し、県全体におけるスタートアップ支援
の機運醸成に繋げる。

【ふじのくに“SEAs”概要】

概要	スタートアップ支援に係る様々なプレイヤーが繋がるネットワーク 産学官民が一体となってスタートアップ支援の機運を醸成
会員	134社・団体（2025年12月末時点）
主な活動	<ul style="list-style-type: none"> ① スタートアップと支援者(会員)のマッチング ② 全体会等の開催 ③ パートナー拠点会議の開催 ④ ニュースレターの配信、情報収集、情報発信



(4) 国内外のネットワーク拡大

R8当初:850万円

連携 誘致 波及

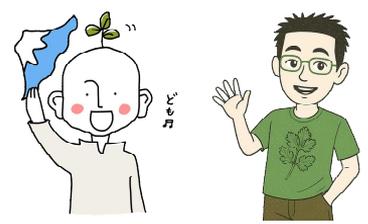


○ 首都圏共創拠点の設置・運営

県職員2名がCIC Tokyoに駐在し、首都圏等のスタートアップと県内企業・自治体等とのマッチングや情報発信を行い、**県内企業との協業や県内への誘致を促進**する。

【首都圏共創拠点概要】

<p>設置場所</p>	<p>CIC Tokyo (東京都港区虎ノ門) *日本最大級のスタートアップ集積基地</p>
<p>業務内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 首都圏のスタートアップや支援関係者との関係構築 ・ 県内スタートアップの成長促進 ・ 首都圏のスタートアップとの共創促進 ・ 首都圏のスタートアップ等の県内への誘致促進
<p>活動実績 (2024.6~)</p>	<p>面談:548件、マッチング調整:83件、イベント実施・参加:327件 (2025年12月末時点)</p>



① TECH BEAT Shizuoka

首都圏スタートアップと県内企業とのビジネスマッチングイベントを開催し、**新たなビジネスの需要創出と県内企業の課題解決**を図る。

【TECH BEAT Shizuoka概要】

主催	TECH BEAT Shizuoka 実行委員会（事務局：静岡県、静岡銀行）
主なコンテンツ	<ul style="list-style-type: none"> ・出展スタートアップと来場企業との個別商談 ・県内企業代表者や有識者等による基調講演やトークセッション ・デジタル技術等を活用した体験型コンテンツ

【2025開催実績（7.24-26）】

来場者数	商談数	出展 スタートアップ	協賛企業	来場者満足度
10,125人	536件 ※	178社	108社	78.1%

※ 2025.12末時点



04 施策 (5) マッチング・実証実験支援 2/4

R8当初:4,000万円

育成

誘致

波及

② 実証実験サポート事業

静岡県をフィールドに実証実験を行うスタートアップに対し、資金面や地域とのマッチング等の支援を行うことにより、**スタートアップの成長を後押しするとともに、地域課題の解決につなげる。**

【実証実験サポート事業概要（2025年度実績）】

事業名称	CO-LAB Shizuoka（コラボシズオカ）
概要	<p>地域課題等の解決のためにスタートアップが県内で実施する実証に対して、県による実証経費の補助(1/2、上限200万円)や、地域パートナーによる実証フィールドの斡旋・提供などの支援を実施</p> <p>* 地域パートナー…自治体、商工会議所、金融機関、支援機関等</p>
実績等	採択SU:10社、地域パートナー:37団体
実証期間	補助金の交付決定日(2025.12月中旬)から2026.2月末まで





④ 中小企業へのA I 導入実証支援創出事業【新規】

A Iソリューションを有するスタートアップと県内企業をマッチングし、導入に向けた実証実験を支援する。

県内企業のA I 導入を促進し、生産性の向上や新規事業の創出を目指す。

【中小企業へのA I 導入実証支援創出事業概要（案）】

対象事業	県内中小企業の①新規領域獲得 ②売上向上 ③コスト削減のいずれかに寄与する新たなAIソリューション開発・実証で、静岡県内の中小企業等の協力を得て実施する事業
補助対象者	AIを活用したソリューションを開発・提供する中小事業者（スタートアップを想定）
補助率	1/2(上限5,000千円)
件数	3件



○ 静岡県内大学発ベンチャー支援協議会

県内大学の研究・技術シーズを新たなビジネスに繋げるため、県内の16の大学等が参画する協議会を中心に、**産学官が連携して大学発ベンチャーを継続的に発掘・育成する取組**を実施する。

【静岡県内大学発ベンチャー支援協議会概要】

構成員

【運営】 県、(公財)静岡県産業振興財団

【参加大学等】 県内16大学等

(静岡大学、静岡県立大学、浜松医科大学、光産業創成大学院大学、静岡理工科大学、東海大学、沼津高専、国立遺伝学研究所、静岡文化芸術大学、社会健康医学大学院大学、農林環境専門職大学、英和学院大学、静岡産業大学、静岡福祉大学、常葉大学、浜松学院大学)

【オブザーバー】 ふじのくに地域・大学コンソーシアム

事業内容

- ・ 協議会会議(年3回)での情報共有、意見交換
- ・ コーディネータ2名(産業振興財団に配置)による、大学の研究シーズ及び地域企業のニーズの掘り起こし、マッチング支援の実施(ラウンドテーブル開催、個別マッチング等) 等



(7) 資金調達支援

R8当初:36,500万円

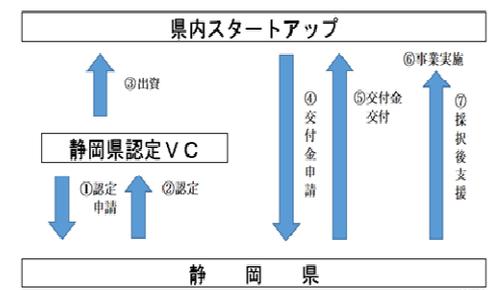
育成 誘致 波及

○ 静岡県ファンドサポート事業

県が認定したベンチャーキャピタル(VC)から出資を受けたスタートアップに対して交付金を交付するとともに、成長支援等を実施する。今後、より効果的な資金調達支援のあり方・枠組みについても検討する。

【ファンドサポート事業概要】

対象事業	以下のいずれかに該当し、県内で実施する事業 <ul style="list-style-type: none"> ・次世代産業関連プロジェクトに関連する分野(ファルマ、CNF、MaOI等) ・県内企業との協業や地域の課題解決に資する分野
対象者要件	<ul style="list-style-type: none"> ・県内に本社又は主たる事業所を置く中小事業者(登記必要)【共通】 ・2年以内に本県内の事業所で正社員を新規雇用又は役員を新たに配置【一般枠】 ・起業から5年以内で研究開発を実施【シード枠】 ほか
交付率・上限額	<シード枠> 2/3 上限1,000万円 <一般枠> 1/2 上限4,000万円
採択後支援	<ul style="list-style-type: none"> ・成長支援(専門家助言、事業展開支援等) ・財務管理体制の強化(経理指導、定期的な検査)
認定VC (R7認定)	46社(静岡キャピタル、Carbide Ventures、AKaFUJI ほか)





① 次世代産業関連PJを活用した研究開発系スタートアップの育成

地域の特性を活かし、本県経済を牽引する産業を創出することを目的に、県内各地にイノベーション拠点を設け「次世代産業関連プロジェクト」を展開。各産業分野における研究開発の支援や、スタートアップと地域企業等とのマッチングなどオープンイノベーションの促進を図る。

【主な次世代産業関連プロジェクト概要】

	<p>ファルマバレープロジェクト (医療・医薬品等)</p>	<p>医療健康産業の振興と集積等を図り、医療田園都市構想を推進 【拠点施設】ファルマバレーセンター(長泉町)</p>
	<p>MaOIプロジェクト (海洋・水産)</p>	<p>静岡の海をフィールドに、海洋産業振興と環境保全の世界的拠点形成を推進 【拠点施設】MaOI-PARC(静岡市)</p>
	<p>AOIプロジェクト (農業)</p>	<p>栽培技術開発により農業の生産性向上を図るとともに、農業を軸としたビジネス展開を促進 【拠点施設】AOI-PARC(沼津市)</p>
	<p>フotonバレープロジェクト (光・電子技術)</p>	<p>光・電子技術を活用し、県内産業の新事業展開等を支援 【拠点施設】フotonバレーセンター(浜松市)</p>



04 施策 (8) 次世代産業関連プロジェクトとの連携

R8当初:800万円

育成 連携 誘致 波及



② 次世代産業関連PJ参加企業とスタートアップとのマッチング支援【新規】

次世代産業関連プロジェクトと首都圏スタートアップとの共創を促進するため、各プロジェクトの抱える課題解決につなげるマッチングイベントを東京都内で開催する。

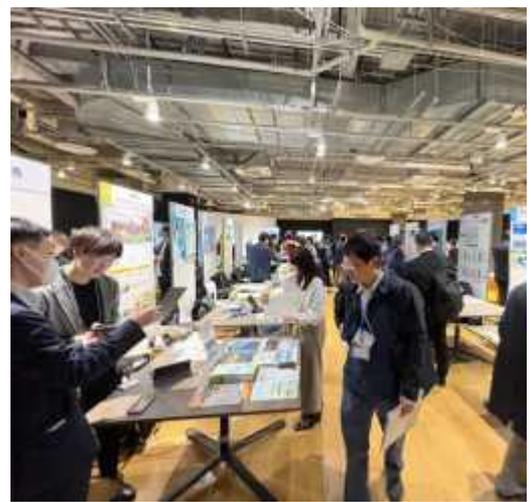


次世代産業関連プロジェクト

- ・ 中核支援機関（コーディネーター等）
- ・ フォーラム参加企業・研究機関等
- ・ 研究開発や事業化の支援（助成等）
- ・ 実証フィールド 等の支援体制



首都圏スタートアップ



04 施策 (9) 取組の拡大・地域への波及 誘致促進

別事業計上

育成 連携 誘致 波及



○ 温泉旅館オフィス化事業

伊豆地域の地域資源を最大限に活用し、温泉旅館のオフィス化を展開。2,000を超える源泉をワーカーに開放、スタートアップ等の参画を促進し、異業種間連携による新サービス創出、地域資源活用拠点の構築を目指す。

【温泉旅館オフィス化事業概要】

2026年度 事業内容	<ul style="list-style-type: none"> モデル事業者選定(4施設程度想定) アドバイザー派遣(伴走支援) 入居企業誘致(視察ツアー等) モデル旅館への入居促進助成
2025年度 選定施設	<ul style="list-style-type: none"> 香湯楼井川(伊豆の国市) 熱川プリンスホテル(東伊豆町) 石花海別邸かぎや(南伊豆町) 下田ビューホテル(下田市)





○ 海外展開支援【新規】

海外の大規模スタートアップイベントへ出展する本県スタートアップを支援。また、本県が参加するスタートアップ・エコシステム拠点都市（セントラルジャパンスタートアップコンソーシアム）の枠組みや、東京都など他の出展自治体とも連携し、オールジャパンでの展開を目指す。

【海外スタートアップイベント出展支援】

<p>概要</p>	<p>フランス・パリで開催される欧州最大級のスタートアップイベント「Viva Tech」等の海外イベントへ出展する県内スタートアップの支援(出展料及び出展に係る調整 等)</p>
<p>対象</p>	<p>本県に拠点を構えるスタートアップ2社程度(原則本社)</p>



写真：JETRO HPより

○ スタートアップエコシステム拠点都市【新規】

令和7年6月に内閣府より「第2期スタートアップ・エコシステム拠点都市」に選定された、本県を含むセントラルジャパンスタートアップコンソーシアムの枠組みを活用し、**中部圏の産学官民のプレイヤーと広域連携することで、世界に伍するスタートアップ・エコシステムの形成を目指す。**

【セントラルジャパンスタートアップコンソーシアム概要】

構成	中部経済連合会、名古屋大学、愛知県、名古屋市、浜松市、岐阜県、三重県、静岡県ほか327団体
ビジョン	「世界における最先端のものづくりイノベーションの中心地」
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・グローバルイベント「TechGALA」の開催 ・海外スタートアップの呼び込み ・アントレプレナーシップ教育及び起業支援活動

